



NIPPON KAYAKU BUSINESS STYLE

日本化薬株式会社 会社案内

## トップメッセージ

日本化薬グループは2016年6月5日に創立100周年を迎えました。これはひとえに関係の皆さまからの長年にわたる暖かいご支援の賜物でありますこと、あらためまして心よりお礼申し上げます。

日本化薬は創立以来、基盤となる「火薬」「染料」「医薬」「樹脂」の4つの技術を駆使して、これらを融合・変化させながら、時代のニーズに応える製品をつくってまいりました。

これからも社員全員がひとつになって、世界的すきま発想。で、新しいことにチャレンジしてまいります。

未来を豊かに、もっと楽しく。

これからも日本化薬にどうぞご期待ください。



代表取締役社長

鈴木政信

# 企業ビジョン

KAYAKU spirit は日本化薬グループのあるべき姿 (=企業ビジョン)。  
この実現のためにCSR (Corporate Social Responsibility) 経営を実践しており、  
日本化薬グループ行動憲章・行動基準・グループ行動指針を制定しています。

## KAYAKU spirit

「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」それが日本化薬グループのあるべき姿 (=企業ビジョン)、KAYAKU spirit です。

## CSR経営

KAYAKU spirit の実現を目指し、「いい会社・強い会社」になることで、社会的責任、経済的責任、環境責任を果たすこと、それが私たちのCSR経営です。

## グループ行動指針

「行動」ではなく「行働」は日本化薬グループ独自の言葉です。これはただ単に行動するのではなく、自らが付加価値創造を考え実行することを指します。

## 企業ビジョン

あるべき姿  
II  
企業ビジョン

企業活動  
事業計画・事業活動  
アクションプラン  
社会・地域貢献活動  
環境負荷軽減活動

行動規範  
心がけ、行動方針



ささえているのは、  
人々の暮らしから産業まで。



### 機能化学品事業

樹脂技術、色素技術、触媒技術を応用・複合化して、低環境負荷・省エネルギーに貢献する製品作りに取り組んでいます。これらの製品はエレクトロニクス分野を中心にさまざまな用途に幅広く使用されています。変革のスピードが速い市場において、日本化学の得意な技術を生かし、強みを発揮するビジネスの創出に取り組んでいます。



### 医薬事業

がん関連製品に特化し、長年培った開発・製造に関するノウハウを駆使して、新薬からジェネリックまでを手がけ、抗がん薬に必要な信頼性の高い情報を医療機関に提供することに努めています。今後も「スペシャリティ、バイオ後続品、ジェネリック」を重点領域とし、「得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献する」ことを目指していきます。



日本化薬は、「機能化学品事業」「医薬事業」「セイフティシステムズ事業」を成長事業と定め、ニッチ分野のグローバルNo.1を目指し、「世界的すきま発想。」で事業を展開しています。



### セイフティシステムズ事業

日本化薬は火薬類の研究開発・製造に関する長い歴史と多彩な技術を持っています。これらの技術を応用して、自動車用エアバッグを膨らませるガス発生装置「インフレーター」、車両衝突時などにシートベルトを引き締めるための駆動力を生み出す小型ガス発生装置「マイクロガスジェネレータ」、そしてこれらの基幹部品である点火装置「スクイブ」を独自に開発。グローバル市場に製品を提供することで自動車社会の安全性向上に貢献しています。



### アグロ事業・その他

アグロ事業および不動産事業を展開しています。アグロ事業では、食の安定供給に不可欠な農薬を製造・販売しています。農業用の殺虫剤、除草剤、殺菌剤や土壌くん蒸剤を主とし、ゴキブリ・トコジラミ・マダニなどの衛生害虫の殺虫剤等も取り扱うほか、さらなる農薬のバリエーション拡大にも取り組んでいます。

# 機 能 化 学 品 事 業

## 社会と産業をささえる

機能化学品事業では機能性材料事業、色素材料事業、触媒事業を展開しています。機能性材料ではエレクトロニクス分野を中心にエポキシ樹脂、紫外線硬化型樹脂等のさまざまな機能をもった樹脂材料を、色素材料は、繊維用・紙用染料の他に、インクジェットプリンタ用色素等の高付加価値色素材料を手がけ、触媒事業ではアクリル酸・メタクリル酸を製造するための触媒を手がけています。過去から蓄積されたさまざまな技術と新しい技術を融合することで、環境に配慮し、省エネルギー化を目指した製品作りを推進していきます。

### ルーツ再発見「1916年」

1990年代初めにフルカラーインクジェットプリンタが発売されて以来、インク用の色材として多くの種類の染料や顔料が使用されてきました。1916年帝國染料製造株式会社に始まる90年以上の歴史に裏付けられた色素の合成技術と多くの製品ラインアップから、インクジェット写真印刷物に適する堅牢性に優れた水溶性染料や、新しい分散技術を用いた顔料分散体を開発し、インクジェット技術の発展に貢献し続けています。



## ■機能性材料事業

半導体封止材用  
エポキシ樹脂・硬化剤

ソルダーレジストインキ用  
紫外線硬化型樹脂

プリント基板用  
エポキシ樹脂・  
硬化剤



機能性材料事業では、半導体封止材用の絶縁材料であるエポキシ樹脂、カラーレジスト、ソルダーマスク、ハードコートをはじめとして広範囲の各分野で使用される紫外線硬化型樹脂、高耐熱・高耐久が特長のポリイミド・ポリアミド樹脂など、さまざまな機能を持つ材料を手がけています。

また、独自に設計した樹脂材料に組成化技術を応用した液晶シール材、タッチパネル用接着剤、LED封止材やMEMS（微小電気機械システム）及び各種センサー用厚膜レジスト等の樹脂組成物、更には光を制御する材料として各種光学フィルム等、高付加価値な製品を開発し、さまざまな領域で多彩な製品を創造しています。



エポキシ樹脂



液晶シール材

### あしたのすきま「タッチパネル用UV接着剤」

タッチパネルをより美しく見えるようにするために。液晶モジュールとタッチセンサーの間のすきまを埋めることで、よりクリアで薄いタッチパネルが実現します。生産工程で貼り直しが可能なので省コスト・省資源にもなる画期的な材料として、当社ではタッチパネル用UV接着剤を開発しています。



## ■ 色素材料事業

日本化薬は、染料の可能性を追求し、国内最大の染料メーカーとして業界を常にリードしてきました。その時代の顧客ニーズに応え、鮮明性、堅牢性、ハンドリング性などで特徴のある独自色材を開発し、繊維、紙パルプ、樹脂着色、インクジェットプリンタなどの市場へ幅広い製品を提供しています。

また、この他にも顕色剤、オーバーコート剤等の感熱記録材料、顔料誘導体(シナジスト)、イメージセンサー用顔料カラーレジスト、赤外線吸収剤等の各種機能性色素材料など長年の色素事業で培った合成技術、分散技術、レジスト化技術、各種印刷&光学評価技術等を活かし、さまざまな分野で社会に貢献できる特徴のある材料の創造に努めています。



紙パルプ用染料



繊維用染料



インクジェット用色素

## ■ 触媒事業



水族館の水槽

触媒とは、日常生活で目にする最終製品などの原料をつくるために使われている重要な物質です。触媒の良しあしが、製造コストを左右し、ひいては最終製品の価格などに大きく影響します。日本化薬では、アクリル酸・メタクリル酸(直酸法)を製造するための触媒の開発・製造・販売を行い、ユーザーから高い評価を得ています。

アクリル酸は、紙おむつなどに使われるSAP(高吸水性樹脂)、自動車用などのアクリル塗料、接着剤などの原料として使用されます。



メタクリル酸は、FPD用導光板などの光学関連用途、水族館の巨大水槽で使用される透明樹脂や自動車用部品、人工大理石などに使用されています。

## ■ポラテクノ

連結子会社(株)ポラテクノでは、液晶表示には欠かせない特殊な偏光フィルムを製造しています。この染料系偏光フィルムは、中小型パネルで車載用や液晶プロジェクタなど高い耐久性が要求されるニッチな市場で強みを発揮しています。



液晶プロジェクター用部材



偏光フィルム

## ■あなたの近くに日本化薬



### パソコン

パソコンをはじめ電子・情報機器の半導体の保護、防湿、絶縁に半導体封止材用エポキシ樹脂が使用されています。

### 携帯電話

ガラスとガラスの間に液晶を封入し、ガラスを貼り合わせる接着剤として液晶シール材が使用されています。

### プリンタ

カラーインクジェットプリンタのインク用色素に耐久性の高い色素が使用されています。

### デジタルカメラ

デジタルカメラ用イメージセンサーには紫外線硬化型樹脂であるレジストインキが使用されています。

### プロジェクター

ポリビニルアルコールにヨウ素や染料を吸着・配向させ、特定方向の光のみを通過させる偏光フィルムが使用されています。

### ふせん

接着剤の原料であるアクリル酸を製造する際に触媒が使用されています。

### カーテン

繊維をはじめ、樹脂などを鮮やかに染め上げる染料が使用されています。

# 医 薬 事 業



## 現代の医療をささえる

日本化薬の抗がん薬の歴史は、1969年の「ブレオ®」の発売に始まり、現在では多くの抗がん薬ラインアップを取り揃えています。また、がん専門MRを配置することにより、医療機関の医師や薬剤師、看護師に対して、信頼性の高い情報を迅速に提供しています。近年は、バイオ後続品、ジェネリック抗がん薬、さらには血管内治療(IVR)分野への取り組みも進め、患者さまに真に必要なとされる医薬品や医療材料を信頼性の高い情報とともに医療機関へ提供することに努めています。

今後も、「スペシャリティー、バイオ後続品、ジェネリック」を重点領域とし、「得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献する」ことを目指していきます。

### ルーツ再発見「1931年」

昭和6年(1931)年、アスピリンの製造で名高い山川製薬株式会社が創業しました。当時、アスピリンは輸入品全盛の時代であり、政府が国産を奨励した重要医薬品の中でも、最も需要の多い製品でした。昭和8年(1933)に苦労の末、国産化に成功し、山川アスピリン錠の発売に至りました。その後、昭和18年(1943)に山川製薬株式会社は日本火薬製造株式会社に吸収合併され、日本化薬としての医薬事業がスタートしました。



## ■主要な医薬品分野

### ●医療用医薬品(国内)

日本化薬のがん治療への取り組みはブレオ®の発売以来、数多くの製品を提供しています。豊富ながん関連製品ラインアップやその情報の集積、ノウハウは当社の強みです。がん関連分野で「得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献する」ために、全国にがん専門MRを配置するとともに、医薬品情報センターを設置し、医療関係者などからのお問い合わせに対応し、医療の一翼を担うべく、適正使用情報を医療現場にお届けできる体制を整えております。



### ●バイオ後続品(バイオシミラー:BS)※

日本化薬は、がん治療や自己免疫疾患治療の主要な役割を果たしている医薬品のバイオ後続品の開発に着手しました。2013年に日本化薬初のバイオ後続品「フィルグラスチムBS」を、2014年に日本初の抗体バイオ後続品「インフリキシマブBS」を上市しました。

※バイオ後続品(バイオシミラー:BS)…バイオ後続品(バイオシミラー:BS)とは、「国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等/同質の品質、安全性及び有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品」のことをさします。



## ■主要な医薬品分野

### ●原薬および輸出事業

原薬事業として発酵技術と抗がん薬で培った高薬理活性物質の製造技術を活用し、医薬品の原薬、中間体の受託製造を行っています。また、輸出事業としてプレオマイシンをはじめとする抗がん薬を欧州、ロシア・CIS諸国、アジア他世界50ヶ国以上に輸出しております。



### ●診断薬

臨床医療における診断や検査には不可欠な診断薬（体外診断用医薬品）を提供しています。日本化薬オリジナルの診断薬の開発や新しい測定方法を開発し、主にがんや糖尿病関連の製品を製造・販売しています。また国内だけでなく、FDA（米国食品医薬品局）の承認を取得し、米国を中心に海外でも積極的に事業展開を行っています。



### ●食品関連

連結子会社の日本化薬フードテクノ（株）では、食品の保存性を向上させるエタノール製剤、食品のカビや微生物の繁殖を抑える品質保持剤、食品の製造環境を清潔にする洗浄除菌剤と健康食品原料の製造販売を行っています。医薬品製造で培った高い技術を活かし、衛生管理の行き届いた環境で、新しい時代の「食の安全・食と健康」を担う最良の製品を社会に提供しています。

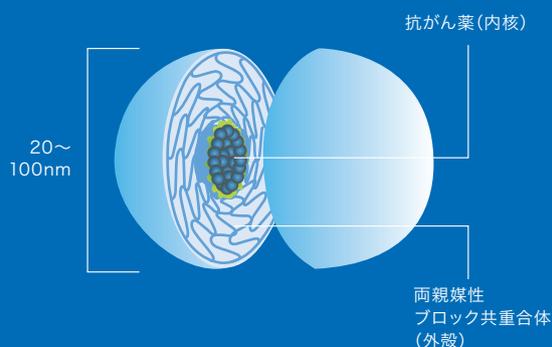




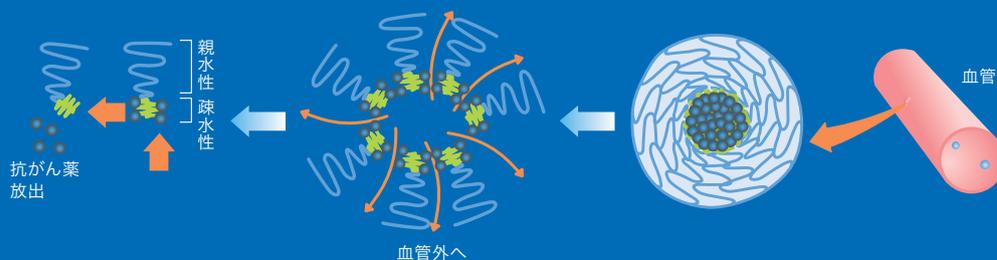
## 明日のすきま ～抗がん薬内包高分子ミセル～

抗がん薬内包高分子ミセルは、他の薬剤に比べ薬効が強く、副作用が出やすい抗がん薬を、がん組織に対して、選択的に薬剤を集中させることにより十分な効果を示すと同時に、副作用の低減を実現することを目指して開発を進めている、ナノメディシンの新たなDDS（ドラッグ・デリバリー・システム）です。

### 抗がん薬内包高分子ミセル



### DDSのフロー



### Q.抗がん薬内包高分子ミセルとは？

A. 抗がん薬内包高分子ミセルとは低分子である抗がん薬を、外側からひも状の高分子で覆い隠した構造を持つ、直径20~100nmの微細な粒子。ひも状の高分子は外側が親水性のポリエチレングリコールで、反対側は疎水性に加工されています。1本のひもは数万の分子量でそれらが凝集することで数百万単位となり、直径20~100nmの微粒子になります。

# セ イ フ テ イ シ ス テ ム ズ 事 業

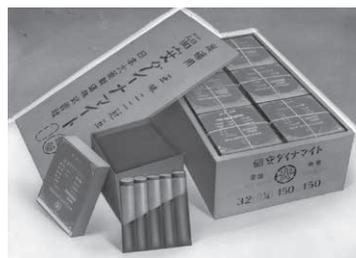


## ドライバーの安全をささえる

増大する交通量・燃費向上のための車体軽量化など現代の自動車社会を取り巻く環境は安全性と相反する側面を抱えており、自動車ユーザーにとっての安全性の確保・向上はますます重要になっています。セーフティシステムズ事業では乗員の安全を支えるエアバッグやシートベルトプリテンショナーの重要部品であるインフレーターやマイクロガスジェネレータの開発・製造・販売を通して、生命の安全と自動車社会の発展に貢献しています。

### ルーツ再発見「1916年」

日本最初の産業用火薬メーカーとして1916年にスタートして以来、ダイナマイトや電気雷管などの開発・製造・販売に長年携わってきた日本化薬。当社が長年培ってきた化学(火薬)と機械(メカ)というユニークな組み合わせの技術やノウハウは、インフレーターをはじめとする自動車用安全部品の設計・開発・製造にいかんなく発揮されています。



## ■ 主要な製品

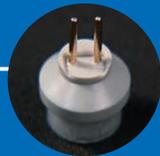
### ● エアバッグ用インフレーター

今や自動車安全装置として欠かせないエアバッグ。これを瞬時に膨らませる役割を果たしているのがインフレーターです。金属製容器の中には当社が長年培ってきた火薬技術を応用したガス発生剤が装填されており、車両衝突時には1/1000秒単位でエアバッグの展開速度をコントロールします。



### ● スクイブ

スクイブとはインフレーターやマイクロガスジェネレータの中に組み込まれている小さな点火装置。車両衝突時に衝撃センサーからの電気信号を受け取って安全装置を動作させる重要な役割を担っています。長期間に亘って苛酷な環境下に置かれても、緊急時には確実に作動する高い信頼性が求められます。

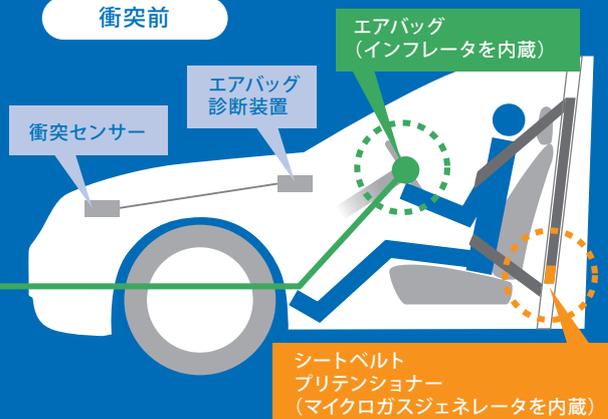


### ● シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ

車両衝突時にシートベルトが自動的に数センチほど引き込まれる機能があるのをご存知ですか？このシートベルトプリテンショナーという装置にはマイクロガスジェネレータと呼ばれる小型のガス発生剤が組み込まれています。緊急時にガスの圧力でシートベルトを引き込み、乗員の体を確実に安全に拘束します。

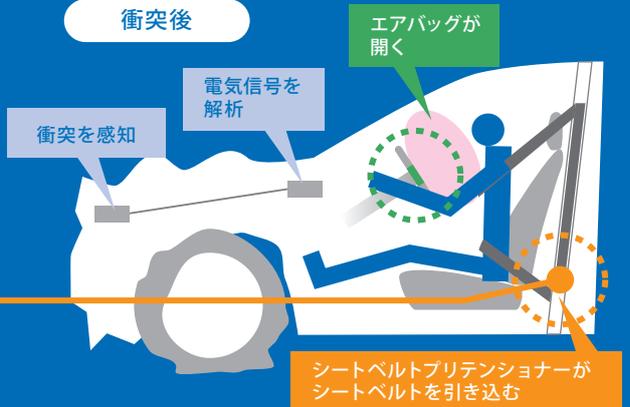


### 衝突前



- ① 衝撃をフロント部に組み込まれた「衝突センサー」によって感知
- ② 診断装置が事故による衝撃がどうかを判断
- ③ 事故と判断された場合、電気信号がスクイブに伝達
- ④ 電気信号からスクイブの点火薬に着火
- ⑤ ガス発生剤に着火しガスが発生
- ⑥ 「エアバッグ」が膨らむと共に「シートベルトプリテンショナー」がシートベルトを引き込み、搭乗者の受けた衝撃を吸収  
※1.～6. まで0.05秒程度

### 衝突後



# アグロ事業

## 農業と食をささえる

生命の維持に不可欠な食。これらの生産の場が農業です。世界人口の急激な増加など、食糧需要が国際的に高まる中、農業をしっかりと守り、将来にわたって安心して安全な食糧を安定的に供給することが求められています。そのためには、環境に調和し、生産者の高齢化・兼業化といった農業形態に対応した農薬が不可欠です。私たちはファインケミカルをベースとした技術力をもとに、「殺虫剤」、「殺菌剤」、「除草剤」、「土壌くん蒸剤」や、その他「防疫用薬剤」等を開発・製造・販売し、時代のニーズに合わせた薬剤の提供を通して、人々の生活をささえています。

### ルーツ再発見「1934年」

アグロ事業の源流は、1934年、小倉染料工場でのくん蒸剤「クロルピクリン」製造開始まで遡ります。1956年にはスイスのガイギー社(現シンジェンタ社)と技術提携し、王子製薬工場で殺虫剤「ダイアジノン」を国産化しました。当時は製品を求めるために、工場の周りにトラックの列ができたそうです。この2薬剤は使用場面に応じた多彩な製剤を揃え、今なお農業の生産現場で使用されています。



## ■アグロ事業の製品

### ●農業用薬剤

製薬技術やノウハウを集積し、時代のニーズに合わせた農薬を提供しています。

#### 殺虫剤「ダイアジノンSLゾル」

農薬として国内初となるマイクロカプセル製剤。効果が長く持続するようになり、また、安全性も高まりました。



#### 土壌くん蒸剤「クロピクフロー」

取り扱いが難しい「クロルピクリン」を水と一緒に流し、処理時の刺激が少なく、処理が簡便で安定した効果が得られるように改良した新しいタイプの製剤です。



他にも、自己拡散する省力型殺虫剤「シクロパック粒剤」、「拡がる」と「くっつく」の2機能を両立させた新しいタイプの展着剤「ワイドコート」、食品添加物を有効成分とする気門封鎖型殺虫剤「フーモン」等、工夫を重ねた製剤を開発してきました。

### ●防疫用薬剤（衛生害虫防除用薬剤）

ゴキブリ・トコジラミ・マダニ等、衛生害虫防除用の薬剤を提供しています。

#### 殺虫剤「サフロチンMC」

従来から衛生害虫防除に使用されてきた「サフロチン」をマイクロカプセルに包みました。効果が長く持続するようになり、安全性も高まりました。特にゴキブリでは、消化管の特殊な構造でカプセルが破壊され、高い効果を発揮します。



### ●その他薬剤

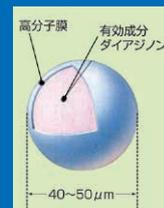
#### 動物忌避剤「R-731」

トウガラシの辛味成分「カプサイシン」をマイクロカプセルに包んだ動物忌避剤です。ケールなどに練りこみ、ネズミがかじってしまう被害を防止します。



### あしたのすきま～マイクロカプセル製剤技術～

マイクロカプセル製剤技術は、国内農薬として初めての技術です。カプセルのサイズや強度、薬剤の溶出をコントロールすることで、ターゲットとなる害虫、害獣の生態に合わせた製剤が可能です。

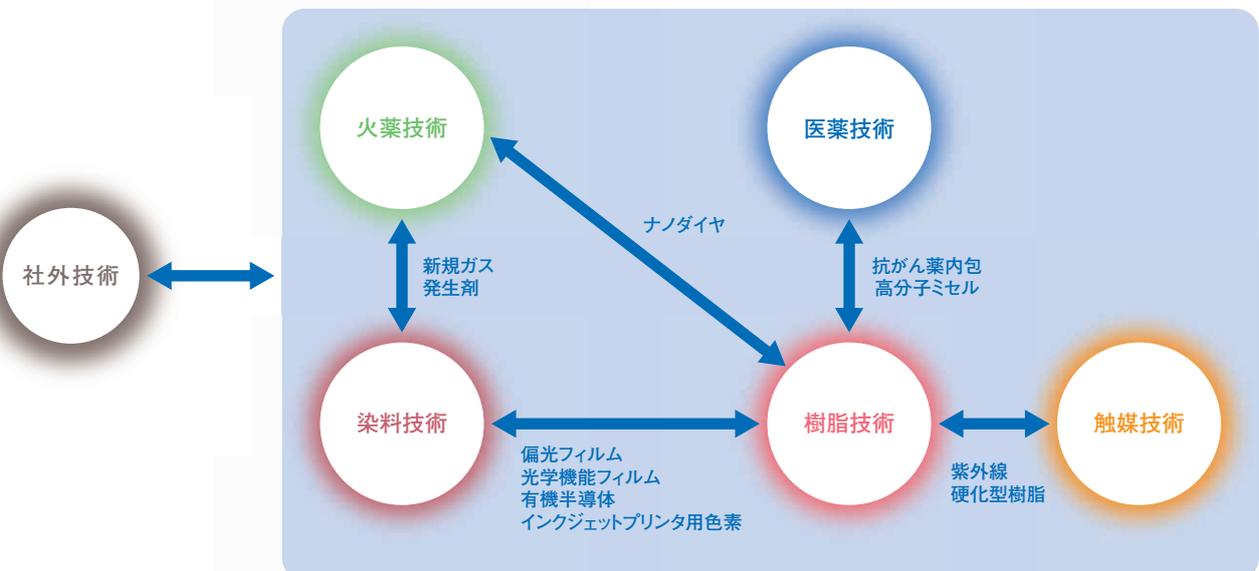


ダイアジノンSLゾル



膨大な技術の蓄積が、今の事業をささえています。

日本化薬は、源流製品に基づく「火薬」「染料」「医薬」分野およびその後進出した「樹脂」などの各分野で培ったファインケミカル技術を基盤技術として確立してきました。これらの技術から、またこれらの技術を融合することで、新製品、新事業が生まれています。これからも基盤技術を強化・拡大し、さまざまな技術を融合することで、時代のニーズに応える新製品を生み出していきます。



○火薬技術

火薬や起爆装置である雷管の製造で培った技術を活かして、新たな技術開発に挑み、ミリ秒レベルの制御を必要とする自動車安全部品の開発に繋がりました。



○染料技術

時代の要望と共に変化し蓄積した技術は高度に進化し、インクジェットプリンタ用色素やデジタルカメラなどのカラーフィルター用色素にも活かされています。



○医薬技術

「医薬」の低分子合成技術と、「樹脂」の高分子技術を融合することにより、「抗がん薬内包高分子ミセル」を新たに創生し、現在臨床試験を進めています。



○樹脂技術

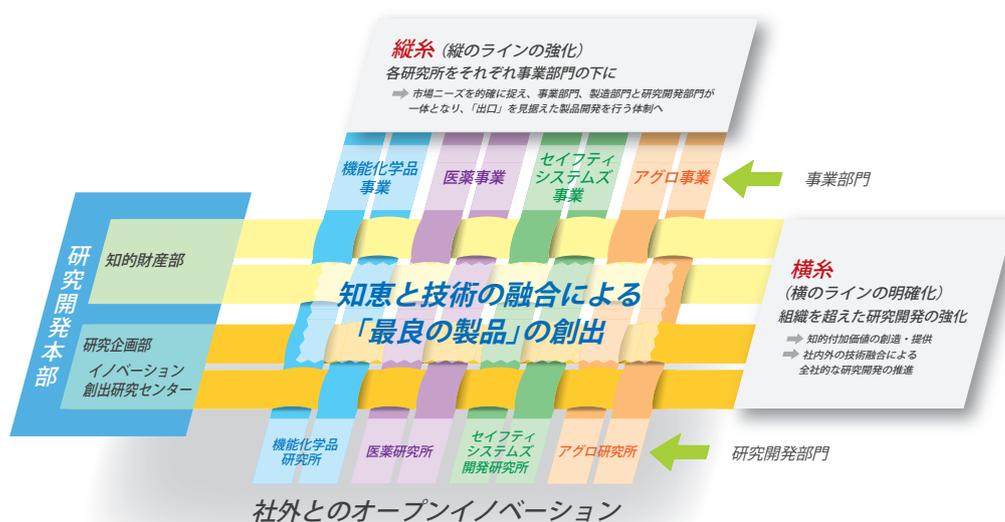
さまざまな樹脂の開発で培われた技術は、染料技術と融合させることで偏光フィルムや光学機能性フィルムなどいくつもの製品を作り出しています。





## 研究所のあいだに“すきま”はありません。

研究開発部門と事業部門が一体となり、市場ニーズを的確に捉えた製品開発を行うため、「縦糸」の強化を図っています。また、組織を超えた全社的な研究開発の強化として、研究開発本部が知的資産の融合やコーポレート研究の管理等を担い、研究開発全般に関与し、「横糸」の強化も図っています。この「縦糸」と「横糸」が織りなす強靱な組織のもと、知恵と技術の融合による「最良の製品」の創出に取り組んでいきます。



### ○機能化学品研究所

機能化学品事業本部の研究開発部門として、樹脂、色素、フィルム、触媒、それらから派生する新たな素材など、多種多様な分野の研究開発を担っています。



### ○医薬研究所

ナノテクノロジー技術を用いた抗がん薬内包高分子ミセル、バイオ後続品および後発品開発など、抗がん薬とその周辺領域に特化した研究開発を進めています。



### ○セーフティシステムズ開発研究所

エアバッグを瞬時に膨らませるインフレーターや、シートベルトを瞬時に巻き取るマイクロガスジェネレーターなど自動車安全部品の開発を手がけています。



### ○アグロ研究所

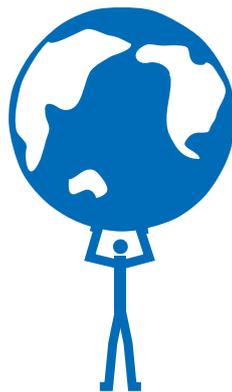
豊かで、安全で、安心できる食品の提供に貢献するために、環境に優しい化学農薬や新規機能性農薬製剤の研究開発を行っています。





## かやく、ささえる。

日本化薬は長い歴史を持つ化学品メーカーです。1916年、日本最初の産業用火薬を製造する株式会社としてスタートして以来、数々の技術を生み出し、多彩な製品を世に送り出してきました。私たちが生み出してきた技術は、今もさまざまに姿形を変えながら、人々の暮らしの中で、便利や快適、安心や安全をしっかりとささえています。その根底にあるのは“人を幸せにする製品で社会に役立つ”という想い。これからも私たちはこの想いを胸に歩み続けていきます。



1916 厚狭創立当時の作業事務所

日本最初の産業用火薬メーカー  
「日本火薬製造(株)」として発足：**火薬技術**



1932 山川アスピリン

「帝国染料製造(株)」設立：**染料技術**

1916

「帝国染料製造(株)」「山川製薬(株)」を吸収合併

商号を「日本化薬(株)」と改称

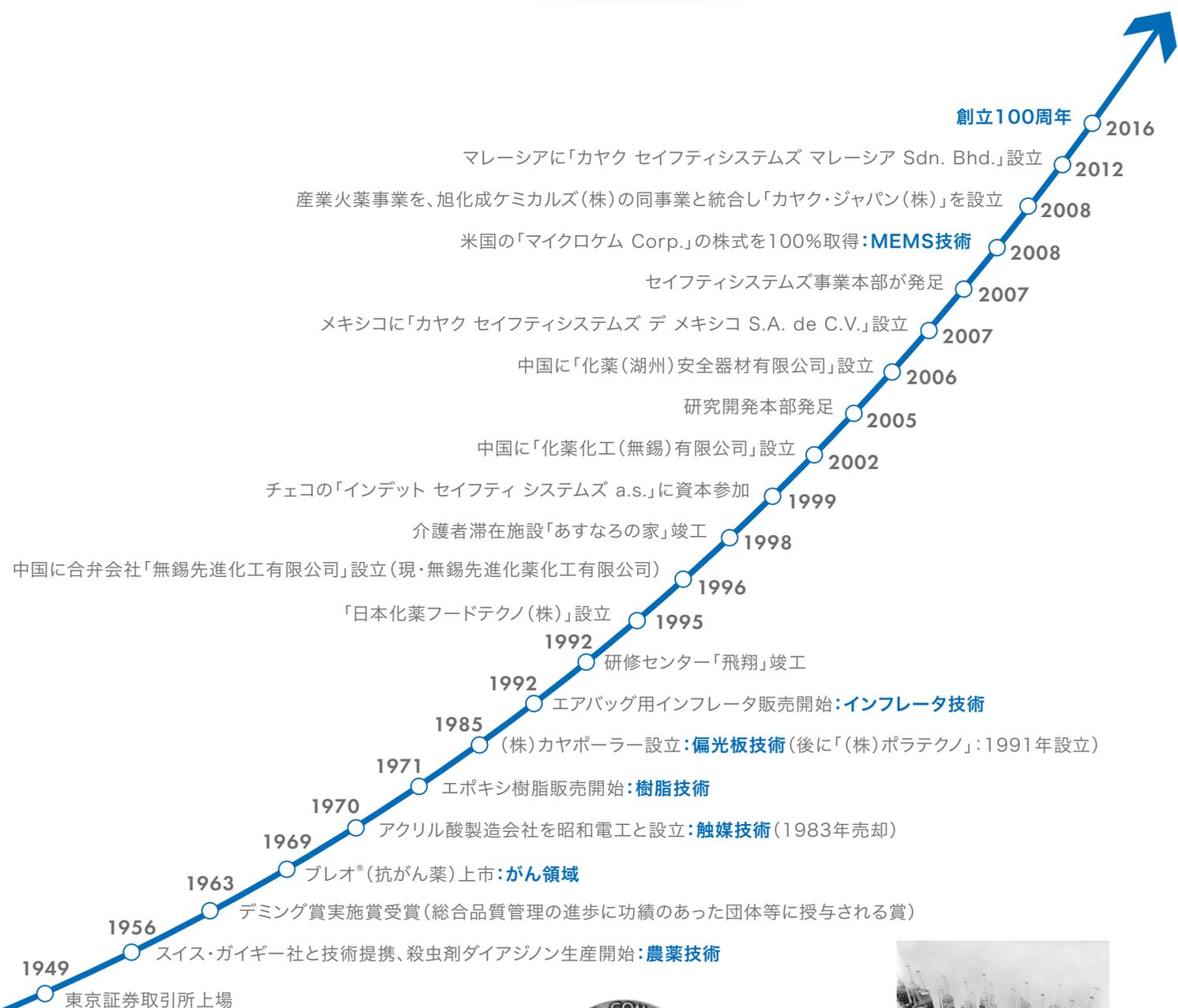
1945

「山川製薬(株)」設立、翌年アスピリンを上市：**医薬技術**

1931

1943

1916



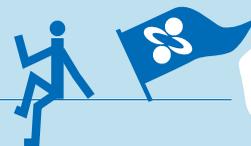
1963 デミング賞実施賞を受賞



1969 ブレオ®を上場

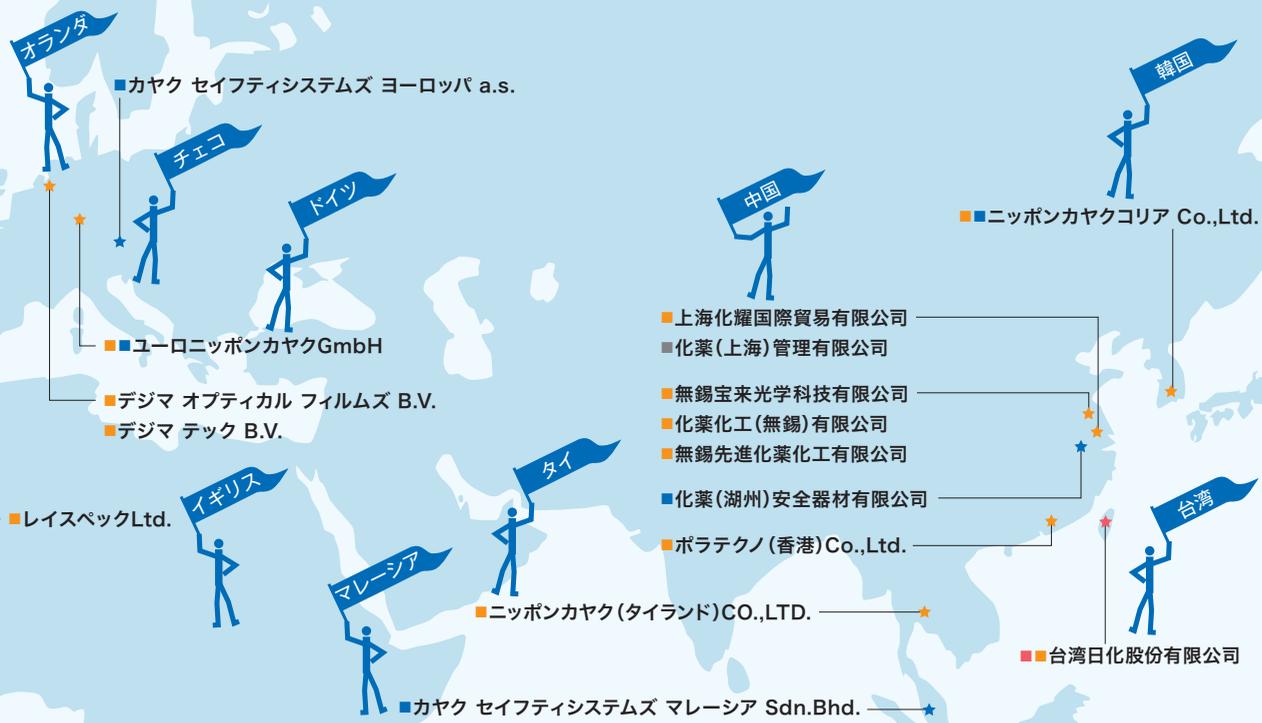


世界に広がる  
日本化薬グループ



## 会社概要

会社名	● 日本化薬株式会社
代表者	● 代表取締役社長 鈴木 政信
設立年月日	● 1916年(大正5年)6月5日
資本金	● 14,932百万円
本社所在地	● 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目1番1号 明治安田生命ビル19、20階
電話	● 03-6731-5200(大代表)
ホームページ	● <a href="https://www.nipponkayaku.co.jp/">https://www.nipponkayaku.co.jp/</a>



## すきまから世界へ、そして次の未来へ——生産拠点一覧

### 機能化学品事業関連



福山工場



厚狹工場



東京工場



(株)ポラテクノ



マイクロケムCorp.



化薬化工(無錫)有限公司



無錫先進化薬化工有限公司



### 医薬事業関連



高崎工場



日本化薬フードテクノ(株)



姫路工場



カヤク セーフティシステムズ ヨーロッパ a.s.

### セイフティシステムズ事業関連



化薬(湖州)安全器材有限公司



カヤク セーフティシステムズ  
デ メキシコ,S.A. de C.V.



カヤク セーフティシステムズ  
マレーシア Sdn.Bhd.



鹿島工場

### アグロ事業関連



- マイクロケム Corp.
- モクステック,Inc.
- ニッポンカヤクアメリカ Inc.
- カヤク セイフティシステムズ  
デ メキシコ,S.A. de C.V.



本社



飛翔(研修センター)

●札幌医薬支店

●名古屋医薬支店

●仙台医薬支店

●セイフティシステムズ  
開発研究所  
●姫路工場

●京滋北陸医薬支店

■(株)ボラテクノ  
■(株)カルティベクス新潟工場

●北関東・甲信越医薬支店  
●高崎工場  
●飛翔(研修センター)

●福山工場

■(株)沖浦ゴルフセンター

●大阪医薬支店

■日本化薬フードテクノ(株)  
■群南産業(株)

●中四国医薬支店

●厚狭工場

●機能化学品  
研究所(触媒)

■厚和産業(株)

■化薬アクゾ(株)厚狭工場

■カヤクジャパン(株)厚狭工場

■(株)西港自動車学校

●大阪医薬支店

●関東医薬支店

◆本社

●機能化学品研究所  
●東京工場  
●医薬研究所  
●東京医薬支店  
●東京研究事務所

●福岡医薬支店

●アグロ研究所  
●鹿島工場

■(株)ニッカファインテクノ  
■(株)ナック

■(株)TDサポート

■和光都市開発(株)

■(株)日本人材開発医科学研究所

■化薬アクゾ(株)

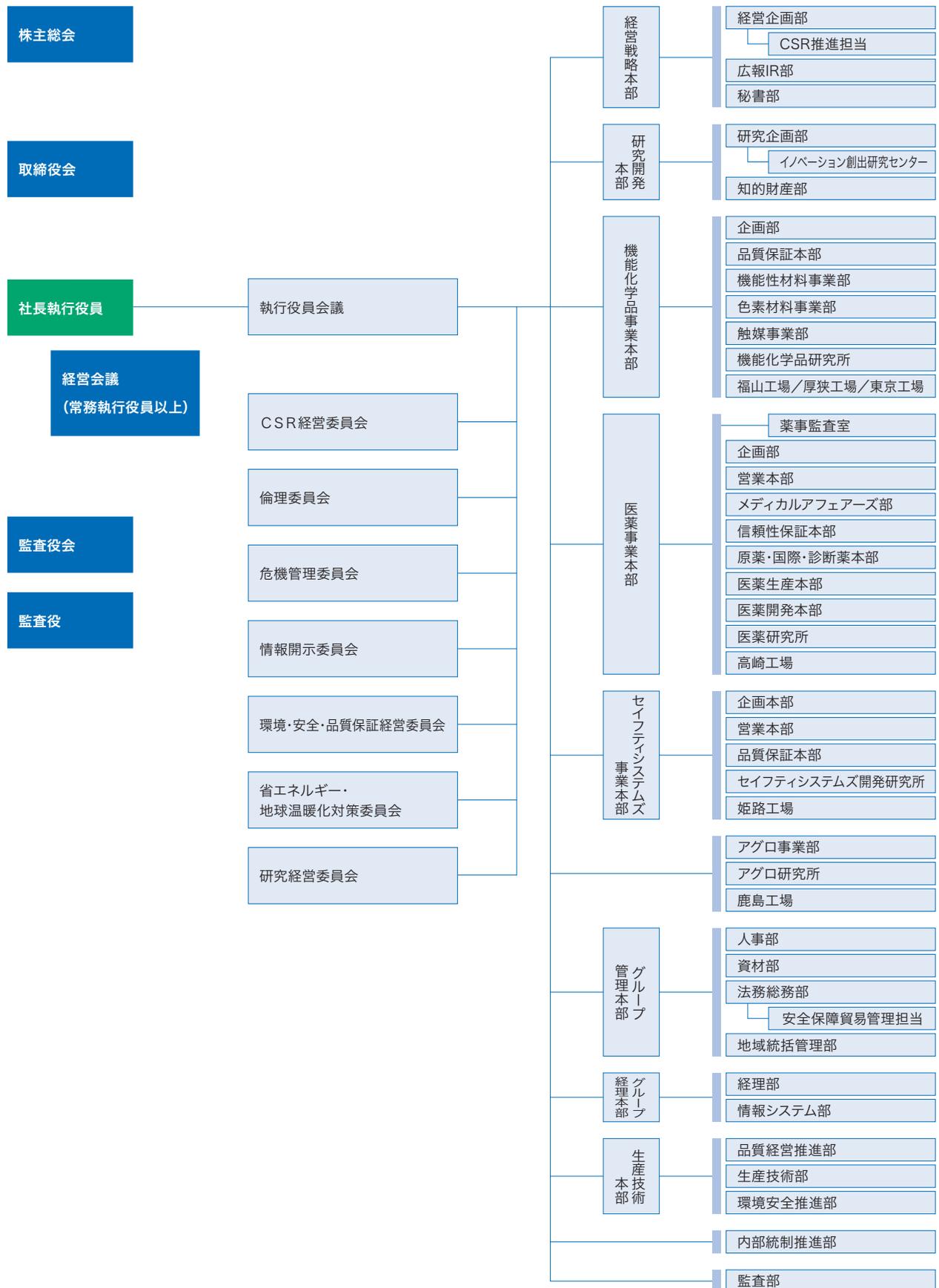
■カヤク・ジャパン(株)

■(株)カルティベクス

■三光化学工業(株)

- 機能化学品事業関連
- 医薬事業関係
- セイフティシステムズ事業関連
- アグロ事業関連
- その他の事業関連
- グループ会社

# 業務組織図 (2018年10月1日現在)



世界的すきま発想。





すきまから世界へ、未来へ。

「世界的すきま発想。」から生まれた

私たちの技術は、華やかにスポットライトを  
浴びるものではないかもしれません。

でも、今の人々の暮らしやさまざまな産業を  
しっかりとささえ、未来につなげていきます。

今後もすきまから世の中をささえる技術を創りだし、  
世界に、未来に貢献していきます。

今後の日本化薬グループに、どうぞご期待ください。



## 世界的すきま発想。

“世界的すきま発想。”とは日本化薬のコーポレート・スローガン。すきまとは、まだ誰も知らない価値の眠る場所を指します。私たち日本化薬は規模に頼るのではなく、独自技術で世界に必要とされる高付加価値な製品を提供し、ニッチ市場のグローバルNo.1を目指します。

世界的すきま発想。

